

3 年

○国語Ⅲ（担当教員：鍵本有理）

課題：すでに出されている課題（『常用漢字ダブルクリア』 p 180～185 を解答）のほか、任意課題であった「読書ノート」についても、全員最低 1 冊は取り組むようにしてください。

提出方法：「読書ノート」と銘打っていますが、「ノート」でなくてもかまいませんので、任意の B5 あるいは A4 の用紙に、①学科・（新年度の）番号・名前、②書名、③著者、④出版社名、⑤印象に残った場面や台詞、感想等（文字数は問いません。自由に）を記入し、最初の国語の授業時に提出。

その他注意事項：教科書・参考書・解説書・説明書・絵本・漫画・雑誌の類いは除く。図書館も休館のところが多いのですが、例えば、「青空文庫」（<https://www.aozora.gr.jp/>）でも古今東西の有名作品（例：芥川龍之介の短編などもおすすめ）が無料で読めますので、適宜利用してください。

○応用物理Ⅰ（担当教員：稲田直久）

課題：授業開始後すぐに「光波（p.117～p.128）」の内容に入ります。2 年次の授業中にとったノートを参照しながら、教科書「高専の物理」 p.88～p.115 をもう一度よく読み返し、内容を理解しなすこと。特に、「反射による波の位相変化（p.95、96）」と「波の干渉（p.99、100）」は、「光波」を勉強するときに必要な考え方となります。また、自分の理解度を測るために、学習内容に対応する問題集の問題に取り組むこと。特に、問題集 341、342、345～347、349～352、354、355、364、367、369 に取り組むことを推奨します。2 年次後半の内容を復習しておかないと前期中間試験にも影響してきますので、各自意識を高く持ってしっかりと取り組んでください。さらに、予習として、p.120 の「(a) 光路長」の考え方を教科書を読んで理解し、必要であればインターネット上の情報や参考書の情報等も加えて、自分なりに（レポート用紙 1～2 枚程度で）まとめておくこと。まとめたものは第 1 回目の授業時に提出すること。ただし、レポート用紙が自宅にない場合は、代替の用紙（ルーズリーフ等）の使用を認めます。

提出方法：第 1 回目の授業時に提出。

その他注意事項：

## ○材料力学Ⅰ（担当教員：谷口幸典）

課題：（１） 8 k g の質量をもつ物体が地上において及ぼす荷重[N]を計算しなさい。

（２）上記物体を直径 1.0mm の線で吊り下げた際に、線に生ずる応力[MPa]を計算しなさい。

（３）長さ 400mm の棒材の一端を壁に固定（片持ちはり）し、もう一端に上記物体をぶら下げた場合において、棒材が水平を保つために壁が受け持つモーメント[Nm]を計算しなさい。

提出方法：A4 レポート用紙に回答して授業再開時に提出すること。表紙は不要です。なお、授業再開ができない場合は、画像データとして提出してもらうことになりますが、その方法については別途連絡します。

その他注意事項：

## ○材料学Ⅱ（担当教員：谷口幸典）

課題：教科書の P.40～鋼の標準組織は炭素量に応じて 3 種類に大別される。それぞれの組織の名称と炭素量の範囲を述べたうえで、それぞれ組織のスケッチを描きなさい。

なお、スケッチにおいて組織を形成している相としてフェライト、セメンタイト、パーライトがあるので、それらを指示すること。

提出方法：材料力学Ⅰの課題提出方法に準じます。

その他注意事項：